

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.8〉

〈小野① 特徴〉

宇部市の北部に位置する小野地区は、57・44平方キロと市の約5分の1を占める。山に囲まれた地区内には、厚東川とその支流の大田川が流れ、多くの集落が川沿いの盆地にある典型的な農山村地域。1889年に厚狭郡小野村として誕生し、1954年10月1日に宇部市と編入合併した。ダム湖百選に選ばれている小野湖、市民交流拠点施設「アクトビレッジおの」藤河内の茶園など、市内外に誇れる資源が多く点在する。

西日本最大級の茶園に、自然体験施設



アクトビレッジおのの春の名物となったシバザクラ

市民の水がめ、巨大な人造湖



厚狭郡小野村は小野、楢小野（うつぎおの）、藤河内、櫛原（いちいばら）、如意寺の5村が合併してきた。昔から山口市との結び付きが深く、いわゆる昭和の大合併時は、村の大勢が宇部市との合併を希望したが、楢小野などは旧小郡町との合併を望んだという背景もある。

「車で県庁まで約30分、JR新山口駅まで20分、

基本データ

- 面積 57.44平方キロ（1位）
- 世帯数560世帯
- 人口1066人（23位）（男性498人、女性568人）
- 高齢化率58.35%
- 小学校児童数18人 ※世帯数などは2022年4月1日現在

でも市役所までは50分はかかるね」と地域住民は苦笑いする。買い物も阿知須や新山口駅方面に出ることが多い。通院者の多くは山口市の嘉川地区に通う。

厚東川ダムの建設は、

良くも悪くも地域の暮らしに大きな影響を及ぼした。工業化が進む宇部地域の水源確保に加え、39年の大干ばつでかんがい用水としての目的も加わり、40年に建設が始まった。先の大戦で中断もあったが、50年に完成。建設過程において村の一部を犠牲にして、小野湖が誕生した。

「小野村65年史」によると、宅地、耕地、山林の計120戸が移転を余儀なくされたという。当時、水没した水田の代替農産物として選ばれたのが、お茶だった。ダム湖左岸を開拓した茶園で栽培を始め、農業改善事業で藤河内地区に移転。現在は西日本有数の茶園となった。取れるお茶は甘みとコクが特徴で、山口産のお茶の9割が小野産だ。

厚東川と大田川の合流地点の近くには、2008年にオープンしたアクトビレッジおのがある。同施設は、カヌーや競技用ボートの体験ができるなど、自然・環境体験学習の拠点として市民に親しまれている。

15年からは、小野地区観光推進協議会まち部会の長谷山敏隆さんが敷地内でシバザクラの植栽をスタート。現在は、地域おこし団体のつりぼっ俱樂部（清水隆司会長）と小野小児童が協力して整備・管理しており、春には約4000株が色鮮やかに咲き誇る。清水会長は「交流人口の増加に向け、来春はキッチンカーを呼ぶなどの新たな取り組みをしていきたい」と話す。